

道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

南郷中学校

令和元年10月8日(第18号)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 第22回3学年レシテーション(英語暗唱)コンテストの結果を紹介します。 ◆◆

5人の入賞者は、文化祭に代表レシテーションを行ったのですが、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、以下の生徒さんが見事入賞しました。

- 第1位 坂田 梨恵 (3C)
- 第2位 宮原 仁沙 (3B)
- 第3位 網野 くるみ (3B)
- 第4位 南木 美香 (3A)
- 第5位 小川 航生 (3C)

よく見ると黒板に「ANNUAL」と記されています。
annualの意味は、バルコさんがスピーチで強調されていたのですが、日本語に直すと「年に1度の、毎年恒例の」といった意味になります。22年目を迎えたレシテーションコンテストの重みを感じました。参加者の皆さんに拍手を送ります。



◆◆ 英語の快挙は続きます。英語弁論大会神奈川県予選で三田野さんが見事準優勝しました。 ◆◆

10月5日(土)寒川町町民センターで開催された高円宮杯全日本中学校英語弁論大会神奈川県大会にて、本校2Aの三田野彩さんが、激戦を勝ち抜き見事準優勝で、関東甲信静大会に進みました。文化祭のステージで彼女のスピーチを目の当たりにした方も多いかと思いますが、今年度の大会は大変スピーチ内容・スピーチ力ともに優れた強豪揃いの中、勝ち抜いてくれました。彼女のスピーチが自然体で迫ってくるものがあったのが勝因のように感じますが、南郷中学校の文化祭で多くの人を前に発表した経験が大変活かされているように思いました。南郷中学校の日頃の英語文化の高さを感じた大会でした。願わくば、11月27日(水)のブロック予選を勝ち抜け、11月29日(金)の全国大会出場まで期待してまいります。頑張ってくれることを皆さんで応援しましょう。



◆◆ 第69回「社会を明るくする運動」作文コンテストで入賞者が出ました。 ◆◆

本校からは26名の3年生生徒がエントリーした結果、以下の3名が県へ推薦や地区表彰となりました。

- 平林 青葉 (3A) 笑顔あふれる社会のために (県へ推薦・地区表彰)
- 本田 大地 (3B) 明るい未来に (県へ推薦・地区表彰)
- 高橋 美咲 (3A) わたしにできること (地区表彰)

表彰式は12月24日(火)が予定されています。おめでとうございます。

◆◆ 安心メールサポートセンターの連絡先が変更になります ◆◆

作業や登録手続きなどは何一つ変わらないので大きな影響はありませんが、契約業者さんが変わり、サポート先(問い合わせ先)だけが変わりました。

安心メールサポートセンターの連絡先は、
株式会社アールイー 0120-971-847 (平日10時~17時) となります。
よろしくご依頼申し上げます。

◆◆ 文化祭の締めは、実行委員長です。 ◆◆

表面は主として英語の活躍を紹介しましたが、国語科の意見文発表も大変高い評価がありました。3年生の意見文を聞いて、「なるほど」「すごい」「カッコいい」「感動した」「参考にしたい」といった感想を持った聴衆が多かったと思います。とても立派な意見文発表でした。各部活動も、FGC活動報告や職場体験発表そして大盛り上がるの後夜祭なども、工夫された内容だったと思います。多くの感動を生んだ文化祭でしたが、そろそろ総括の時だと思えます。ここで文化祭実行委員長の締めの言葉を紹介しします。



3年C組 坂田 梨恵

今回、文化祭実行委員長を務めさせていただいた坂田梨恵です。初めは、委員長として、本当に良い文化祭を作るかととても不安でした。ですが南郷中生全員が一丸となり、全員で努力してきたからこそ、南郷中生一人一人が“星のように輝ける”ような素晴らしい文化祭を作り上げられたのだと私は思います。私にとって文化祭は、南郷中生が輝けるステージであり、いつもお世話になっている地域の方々、そして家族に日々の感謝を伝える場であると思っています。今回の文化祭で地域の方々、家族に感謝を伝えられていたのならとてもうれしいです。今回文化祭に足を運んでくれた方々、一緒に素晴らしい文化祭を作りあげてくれた南郷中生に感謝を伝えたいです。

本当にありがとうございました。

◆◆ 先日数学科の先生方が校長室で全国学力学習状況調査の結果を分析していました。 ◆◆

「数と式・図形の内容についての理解は十分である。」しかし、「関数や資料の活用が課題だ。南郷中生は例年反比例について把握が弱い。反比例しっかり押さえなければ・・・」「1年生の最後の内容である資料の活用・ヒストグラム(棒グラフ)や度数分布表などでは、用語の定義(把握)が足りていない。最頻値の意味を忘れてる生徒が多い。ヒストグラムや度数分布表の特徴や必要性や用途は何か。違う単元であっても教材を工夫して、子供たちに考えさせることで、より理解を深められ、知識の定着につなげたい。」といった声が聞こえてきました。生徒の実像を正しく捉え、今後の授業でどう修正・改善していくかが重要です。

同様に、国語科の分析では、「それぞれの領域において、バランスよく力をつけている生徒が多い。平均正答率も全国・県平均をとともに上回っていることから覗える。」としながらも、「相手にわかりやすく伝える表現について理解する能力はあまり高くない。伝える表現ができる力をつけることや、伝える文章を書く力をつけることが課題。」と分析し、「相手に伝える内容を考えさせる機会として、話し合いやディスカッションなどの取り組みを増やしていきたい。」としています。

英語科においても、PCで録音調査だった「話すこと」については、まだまだと課題を感じたはずですが、それぞれの科で対策を考えているようですが、先生方の授業での工夫と努力に期待したいと思います。

◆◆ はやまクリーンプログラムってご存知ですか？ ◆◆

深刻化する海洋汚染や地球温暖化対策に貢献すべく、マイクロチップス問題への取り組みを中心に葉山町の取り組みを強化していくそうです。

その例として

- ・町が管理する9施設(役場庁舎・教育総合センター・福祉文化会館・図書館・南郷上ノ山公園・しおさい公園・保健センター・消防庁舎・クリーンセンター)でのペットボトル飲料の販売を廃止

町の上記施設からペットボトルごみが出ないような方策を採るそうです。

お水に関しては、ウォータースタンド株式会社の協力を得て、7カ所にウォータースタンドを設置することになりました。

- ・公共施設への町職員によるレジ袋の持ち込み禁止
- ・マイボトルの奨励

これらの方策を通して、一人ひとりができることから、プラごみの減量化や3R(削減・再使用・再生利用)を促進していくというものです。葉山町が音頭を取り、この運動(宣言)が、葉山町の町民意識に広がり、実効的なものになればいいなと願います。

